

会 議 録

会議の名称	平成28年度 第1回社会教育委員会議
開催日時	平成28年6月6日(月)午後2時00分～午後4時00分
開催場所	市役所8階大会議室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) 社会教育関係団体の補助金について (2) 家庭教育について (3) その他
会 議 資 料	資料1 平成28年度 社会教育関係団体補助金(交付金)一覧 資料2 (仮称)所沢市社会教育委員会議意見のまとめ(案) 資料3 家庭教育に関する講座について(社会教育課・公民館)
担 当 部 課 名	教育長・内藤隆行 教育総務部長・美甘寿規 教育総務部次長・師岡林 スポーツ振興課主幹・根本靖 文化財保護担当参事兼文化財保護課長事務 取扱・木村立彦 生涯学習推進センター所長・倉富恵理子 教育総務部社会教育課 社会教育課長・安田幸雄、副主幹・橋本浩志、主査・石井のぶ江 教育総務部社会教育課 電話 04(2998)9242

所沢市社会教育委員会議 出席一覧

平成28年6月6日(月) 14時00分から 所沢市役所8階大会議室

選出根拠	氏名	備考	出欠席
学校教育 関係者	岩間 健一	所沢市立小中学校校長会 (美原中学校長)	出
学校教育 関係者	仲 智	所沢私立幼稚園協会 (若草幼稚園理事長)	出
社会教育 関係者	越川 輝代子	所沢市文化団体連合会 副会長	出
社会教育 関係者	青木 幸子	所沢市子ども会育成会連絡協議会 副会長	出
社会教育 関係者	佐野 喜代子	所沢市スカウト協議会 副代表 (ガールスカウト埼玉県第36団)	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	笹島 千代子	青少年育成アドバイザー NPO埼玉県教育支援センター理事	出
社会教育 関係者	小沢 貞泰	北秋津小学校区 心豊かな子どもを育てる学校 と地域づくり連絡会議 北秋津ネット 議長	出
社会教育 関係者	三浦 峰高	所沢青年会議所	欠
社会教育・ 家庭教育 関係者	須田 昭仁	所沢市PTA連合会 会長 (元安松中学校PTA会長)	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	小林 ヒデ子	人権擁護委員 民生児童委員	出
家庭教育・ 学識経験者	宮木 孝子	元秋草学園短期大学 地域保育学科教授	出
学識経験者	西村 昭治	早稲田大学人間科学学術院 副学術院長	出
学識経験者	有地 好登	日本大学芸術学部教授 美術学科主任	出
学識経験者	田部 真一	淑徳大学非常勤講師 (元市内小学校長)	出
学識経験者	関 直規	東洋大学文学部 教育学科准教授	出

選出根拠 = 所沢市社会教育委員条例第2条

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
社会教育課長	<p>【 1 開会】</p>
教育長	<p>【 2 あいさつ】</p> <p>過日、北海道で行方不明の子が見つかったということだが、しつけなのか、幼児虐待なのかという議論がある。子どもが水だけで何日も過ごしたり、必ず迎えに来てくれると信じて待っていたこと、自衛隊による子どもへの心のケアなど、今回の事件で学ぶべきところはたくさんあると感じた。最近話したことの中で、憲法の話がある。日本で最初にできた憲法は聖徳太子が作った 17 条憲法だが、日本が中央集権国家となり、仏教と神道が混ざり合ってきた憲法であり、「和をもって貴し」という言葉で始まる。内容を最後まで読んでみると「大事なことは皆でしっかり議論して決めなくてはならない」とあった。また、読んだ本の中で「和」は「平和」であり「平和を貴ぶべきだ」と読むとあり、日本の文化は素晴らしいと感じた。今日も引き続き家庭教育についてご審議いただくということで、社会教育委員の皆様には大所高所から、所沢の社会教育の振興のためにご意見をいただきたい。</p>
議長	<p>今の北海道の事件の話に関連して、私自身親からかなり厳しくしつけられたが、それはしつけなのか、虐待なのか。そういった親の判断は、時代や社会の背景が影響していると感じる。あるいは、地域の背景もあるかもしれないが、そういった大人の判断は周りに影響されるのだということ、家庭教育を考えるとときに考慮しなくてはならないだろう。どんな社会や地域であるとか、どんな家庭であるかが子ども達に影響していると考え。家庭教育から社会を考えていくという観点で、今任期最後の会議だがよろしく願いたい。</p>
社会教育課長	<p>事務局より会議の欠席者報告を行った。続いて、資料 1・2、各課からの配布資料の確認を行った。</p>
事務局	<p>【 3 議事】</p> <p>(1) 社会教育関係団体の補助金について</p> <p>資料 1 に沿って、事務局より説明が行われた。</p>
議長	<p>何か意見があるか。</p>
委員	<p>毎年この会議で補助金について審議され、承認されてから補助金の交付先と</p>

事務局	<p>金額が決まるということだが、毎年交付される団体名や補助金が同じである理由と、補助金を辞退する団体はあるのか、また新規に補助金の交付を希望する団体は申請できるのかをお尋ねしたい。</p> <p>補助金を交付している団体は2種類あり、PTA連合会のように活動している団体に対して補助金を交付している団体と、実行委員会のように各事業自体に対して補助金を交付している団体がある。基本的には全市的な組織体で活動している団体に交付しているので、地域での限定的なサークル活動のような社会教育関係団体に交付するものではない。最近では、新規に補助金交付を申請する団体はない。新規で申請があった場合には、教育委員会や補助金審査会等で審査を行い、対応していくことになる。</p>
委員	<p>現在、小学校に組織されている校区育成会は所沢市子ども会育成会連絡協議会に加盟し、市より交付金が交付されている。子ども会育成会活動は、校区単位まで大きくはない地域や、子ども会のような小さい単位で活動しているところがあるが、今は補助金の対象とはなっていない。補助金を受けるために校区単位まで組織を大きくすると長い年月や労力がかかってしまうが、小さな単位で活動されているところにも補助金が行き渡らないかと考えている。そういったところが申請をして、補助金の対象となるようにならないものか。</p>
教育長	<p>子ども会活動の基本的な単位活動というのは、各地区創意工夫をしながら活動していただきたいと考えている。ある地区の子ども会では、自治会から補助金が支出されているが、最近ではこのように自治会から補助金が支出される子ども会が増えてきた。自治会からの補助金が少ないあるいは出ない場合には、廃品回収をして子どもリサイクル活動に参加し、そこで得たお金を活動に充てたりしている。また、新規の社会教育関係団体で経費が必要な場合には、文科省の「子どもゆめ基金」に申し込むように話している。実際そちらの方が補助率が高いので、そちらにエントリーしている団体もある。他にも目的別の基金や財団もあるので、そちらを案内することもある。この資料にある補助金の一覧は、既に議会を通過して議決されているものであり、変えることができないということもある。補助金についても厳しく考えられている中で担当者が必死に守っているところであり、その中で毎年運用しているという側面もある。</p>
議長	<p>我々が行ってきた「つなぐミーティング」でも、1回目は補助金が交付されている団体に声をかけたが、補助金が交付されている団体は公的に意味があると教育委員会が判断しているのではないか。このように、補助金の交付にはある程度基準があるのだと思う。</p>

議長（続き）	<p>他に意見がないようなら、原案どおり承認としてよろしいか。</p> <p>《一同了解》</p>
議長	<p>では、議案 1 については原案どおりとする。</p> <p>（ 2 ）本市の社会教育について 資料 2 について、事務局より説明が行われた。</p>
議長	<p>資料 2 について、何か意見はあるか。</p>
委員	<p>この資料の配布先はどちらになるのか。どのような方が見ることになるのか。</p>
事務局	<p>こちらについてご意見をいただき修正して完成した後、まずは教育委員会に提出していただく。こちらを配布するのではなく、社会教育委員会議からの意見として参考にさせていただいて、教育委員会がどう施策に反映させていくかを検討していく。</p>
委員	<p>家庭を中心として考えた場合には、この資料で「つなぐ」ではなくて「つながる」という積極的なイメージの方がいいのではないかと思う。</p>
議長	<p>大事な視点であると思う。ただ外部にこのまま配布するというならば、もっと吟味しなければならないので、今回は我々の意見のまとめであるということを確認させていただきたい。</p> <p>図の中の「子育てを見守る『チームワーク』」だが、コーディネーターとして「行政機関（公民館等）」と入れさせていただいた。我々は、支援が届かない家庭にどうやって支援を届けるのかということに重点を置き検討してきた。難しいことだが、考えていかなくてはならない大事なことであると思う。そういった視点から、地域のコーディネーターとは「行政機関（公民館等）」ではないかと思ったが、いかがか。</p>
委員	<p>難しい設問だと思う。例えば違った見方をすると、地域のコーディネーターは学校の校長先生や先生方、あるいは自治会や町内会であったりと色々な答えが考えられる。特に、社会教育の視点で考えると「行政機関（公民館等）」と入れるべきだと思うが、これといった答えが見つからない。</p>

委員	<p>図にある「見守る」「つなぐ」「学ぶ」「相談する」のそれぞれに、色々な団体があり、それぞれのところにコーディネーターがいる。図の「コーディネーター」は不要であり、「チームワーク」でいいのではないか。</p>
委員	<p>地域ではそれぞれの分野で活動している方々がいるが、全体を見たときに、活動が重なっていたり、必要な活動が欠落している部分があるのではないかという視点で見る役割を「コーディネーター」と言うということなのではないか。このような立場の人がいた方が、より市民に近いところでサポートができるのではないかという主旨があると思われる。「見守る」「つなぐ」「学ぶ」「相談する」のそれぞれから代表で出て、議論し合う場をコーディネーターとするのが理想的だと思うが、現実的にそのような組織が作れるのかという問題もある。あるいは、比較的全体に関わっているということから、地区を担当エリアとして持っている行政機関の公民館が、コーディネーターの役割を積極的に担うということを社会教育委員の立場から提案してもいいのではないかとも思う。</p>
議長	<p>学校は「特色ある学校づくり」ということで、それぞれの学校が学校づくりの方針を掲げている。そういった観点で地域を見たとき、何か意見はあるか。例えば、公民館が地域性を生かした「特色ある地域づくり」「特色ある公民館づくり」といったものはできないか。</p>
委員	<p>現在、新所沢東地区では、新所沢東ネットワークというものをつくり、特色ある活動をしていただいていると思う。その中に小中学校も入って、子どもの見守りを進めていこうということで取り組みを進めているが、恐らく各公民館で特色ある公民館づくりはしていると思う。そういった取り組みは学校としては大変ありがたいと感じている。</p>
議長	<p>新所沢東地区は、この図と関係した活動をしているのか。</p>
委員	<p>関係している。</p>
議長	<p>それぞれの関係機関がつながり、関連し合っているということは素晴らしいと思う。安心感があるのではないか。 行政の方はいかがか。</p>
事務局	<p>本日お配りしている公民館事業報告集について、先日の公民館運営審議会でも話が出たが、新所沢東公民館のページをご覧くださいと子どもに関する事業</p>

事務局（続き）	<p>が多いことがわかる。これは、唯一児童館のない地区であるため、公民館に児童館のような子育ての支援の機能を持たせるということから、子どもの事業を多く行っているということである。コーディネートの機能ではないかもしれないが、各地区の特色を生かしながら様々な事業を展開し、参加していただいている。</p> <p>また、公民館では集まることができる場所を作るということで、ひろば事業も展開している。乳幼児の親子を対象とした「子育てひろば」では、気軽に集まって親同士が情報交換したり、仲間づくりができるように支援している。</p>
議長	<p>今のような色々な事業を行っている中で、支援が届きにくい家庭や子どもに支援を届けるための工夫が増えてほしいと思う。格差社会と言われるが、意欲のある人は学習や活動にどんどん参加する。しかし、何らかの理由で閉鎖的であったり支援が届きにくい家庭を置き去りにすることは、社会として良いことなのだろうか。例えば各事業の中でも、このような家庭に配慮した工夫をしてもらいたいと思う。</p> <p>資料2の4ページの最後にある「次任期の会議では」の部分に次の方向性が示されているが、何か意見はあるか。</p>
委員	<p>支援が届きにくい家庭に社会が手を差し伸べなければならないということについて共感している。機能としては公民館であることは間違いないと思うが、施設とかその場に足を運んでもらうという意味になってしまうと、我々が意図している公民館という言葉の意味が変わってきてしまうのではないか。公民館には、拠点や人が集まるということを期待するものなのか。</p>
議長	<p>前回会議の教育長の挨拶の中で、ユニバーサル社会がこれからは大事だという話があった。家庭教育においても、ユニバーサル社会に近づいていくことが大事である。支援が届かない家庭のように、公民館のようなところに行くことができない地域で孤立している家庭がある。学校でもそのような支援が必要な家庭があることがあるが、その家庭の子どもにとって良いことは、学校全体にとっても良いことである。地域でも同じように、閉鎖的な家庭に対し、そのような家庭からのアプローチを待つのか、地域からアプローチするのがいいのかは分からないが、このような視点を持つことはとても重要であると感じている。</p>
委員	<p>この図を見ると、建物や役員のような方々が示されているのではと感じた。実際に人と人をつなぐ接着剤となる人は誰なのかを考えていた。昨年度の入間地区社会教育委員研修会に参加したが、そこではその役割を果たすのは社会教育委員だという話があった。これだけの知識と情報を我々社会教育委員が持つ</p>

委員（続き）	<p>ているので、最初の出会いのときの接着剤を社会教育委員が行い、公民館は人の出会いやつながる場所であるのではないかと思う。</p>
議長	<p>前回、委員自身が家事を手伝っているという話があった。外から見えない家の中での夫婦関係や家族関係が変化しているのではないか。従来のような男性が外で仕事をして、女性が子育てや家事をするといった図式では、今は生活していくことができない。こういった役割のバランスが偏るようなら、その家庭には非常にストレスがかかっていると言えると考えられるのではないか。東京都で、子どもを産んでから1年未満に自殺している母親が1年間で40人いるというデータがある。その背景についてはっきりとしたことは分からないが、こういった家族関係の変化が影響しているのではないかと予想する。そういった家庭のあり方や状況も考慮していなくてはならないのではないかと思う。</p>
委員	<p>その通りだと思う。2人の子どもがいるが、中学校のクラブ活動では、学校の顧問の先生だけではなく、保護者の支えがあって行われている。国でもクラブ活動のあり方を見直すことが検討されているようだが、教育は学校だけではなく地域の力も必要であり、小学校・中学校と縦割りではなく、地域全体で子ども達をサポートすることが大事なのではないか。子どもが小学校を卒業してしまえば地域の活動に参加する機会も減ってしまい、地域とは関係ないという意識を持った家庭が多いように見受けられる。子どもの年齢に関係なく、子どもをサポートするような地域の活動があれば親も参加するであろう。クラブ活動を地域まで広げ、地域の人をうまく巻き込んでいくことができれば、手の届かない家庭にも支援が届けられるきっかけになるのではないか。</p>
議長	<p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>昨年の7月に保健センターで、非常に困難な家庭をケアしている保健師の話聞いたが、議長の話のように、なかなか外に出ることができなかつたり、情報を得るという意識が低かつたり、あるいはその余裕がない家庭に対し、どんな方法で情報を届けるのがよいのだろうか。先ほどの新所沢東公民館での子育てに関する講座の情報なども、新聞のように全戸配布ではないと思われるが、公民館などに置いてあるチラシを手取る人は意識が高い人であるだろう。外に出ない家庭に対しては訪問が有用であると考えられるが、訪問できる人は保健師による訪問や学校の先生による家庭訪問など限られた人であり、家庭の内部までなかなか入り込めない。だが、こういった人達により情報の伝達できれば、閉鎖的な家庭が外に出るきっかけになるだろう。</p> <p>もう一つ、先日、教育現場におけるIT機器の使い方についての研修会に参</p>

委員（続き）	<p>加したが、文科省の理想的な計画では、電子黒板が5年後には全ての都道府県の公立小学校に配置されるということであった。さらには、小学生の3～4人に1人の割合でパソコンが貸与され、学校で分からなかったことを家庭で復習するというアーカイブス機能を持たせるということで、学力低下を防ぐということであった。こうしたものを家庭教育の中にも導入し、活用することができたらいいのではないかと考えた。やはり、家庭の中に入り込まないといけない。その方法の一つとして、IT機器を活用することも考えてもいいのではないかと思う。</p>
議長	<p>家庭に入り込める人は誰か、家庭に情報を届けるにはIT機器が有効ではないかという具体的な提案であった。他に意見はあるか。</p>
委員	<p>先ほどの、しつけのために子どもを車で置き去りにするという話は考えられないと思った。自分の子どもへは、叱ってもその後の様子を気にするといったように、子どもと密接に結びついている叱り方であった。また、子どもを産んだ後に自殺してしまうという話もあったが、今の時代に合った支援のやり方は何だろうかと考えさせられた。</p>
議長	<p>他にはあるか。</p>
委員	<p>インタビューには参加させていただいたが、会議にはなかなか出席できずに申し訳ない。この図には、皆さんの子どもへの願いが込められていると感じた。</p>
議長	<p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>高齢者支援の分野では、社会資源とか、地域デビューという言葉が多く出てくる。今、団塊の世代の方々がたくさん地域にいる。ぜひこの世代の方々のボランティアや子どもの見守りなどに巻き込みたいと思う。団塊の世代の方々の経験を子ども達の生きる力の教育などに生かしていただきたい。子ども達にアドバイスをしていただける人を探したいと考えている。</p>
議長	<p>以前に、国立教育研究所の笹井先生の研修会があったが、「公民館活動をしている人はたくさんいる。自分の好きなことや趣味はやるが、そこで終わるのではなく、社会に還元するべきだ。」という話があった。私も同感で、文化団体連合会が学校へ行って子ども達にボランティアで教えているように、自分が社会に還元できないかと考えてほしいと思う。</p> <p>他にはいかがか。</p>

委員	<p>今まで検討してきた、資料の4ページではコーディネーターは公民館を中心に行うべきとあるが、実際にできるのかどうか不安を感じる。公民館には、専従の職員は何人くらいいるのか。</p>
社会教育課長	<p>現在公民館はまちづくりセンターの中にあり、教育委員会から業務を補助執行している。センター長が公民館長を兼ねており、他に正職員2名が配置されている。</p>
委員	<p>発想としては、その2名の職員が中心となって進めていくということだと思うが、公民館の事業報告を見ると、本当に様々な事業が行われている。視点を変えて、公民館に来られない人にどう伝えていくかを考えていくのと同時に、どうして参加できないのかということも考える必要があると思う。今、情報化が進み学校現場でもパソコンを使っているが、小中学生のようなまだ判断が未熟な子ども達に対して、パソコンだけで教育を済ませるということはいかかなものかと思う。先日学生が蛇を見つけ、写真を撮りたいということで携帯電話を持って近づいたところ、手を噛まれてしまったということがあった。常識では考えられないような感覚であると思った。情報化が進むと便利にはなるが、人とのつながりも希薄になり、情報を選ぶ力が必要になる。また、インターネット上の中傷は、地域での人と人とのつながりを断つことにもなり兼ねないので、やはりこれだけに頼ってはいけないと思う。人と人が有機的につながるには、対面で話していくしかないだろう。それが一番、気持ちやニュアンスが伝わるのではないか。こういったことから、公民館は非常に大事な役割を担っているのではないかと思う。</p>
議長	<p>公民館の重要性について話していただいたが、常勤の職員が2名ということで、どこまでできるのかということがある。これは、教育委員会の運営の仕方について、課題でもあるだろう。現在公民館は、地域住民のニーズには随分応えていると思うが、時代のニーズに応えているのだろうか。このような視点も期待したいところである。</p> <p>また他に意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>海外の社会教育施設でも、利用者に偏りがあるということがある。最近の例だと、移民が多い中、社会教育施設を利用するのは白人であり、アジア系の移民は困っているが施設を利用できないと状況がある。そこで、社会教育施設を改革しようということになり、パンやミルクを日常的に買いに行くのと同じように施設を利用してもらい、自分達が必要な情報を気軽に日常的に得られるように活用できる施設としていこうという例があった。所沢市は、確かに子育て</p>

委員（続き）	<p>に関する講座を多く行っているということは分かったのだが、課題を抱えている人が来ないということは、家庭教育支援において偏りがあるのではないかと考えられる。困難を抱えている人が地域で1割いるとしたら、施設の利用者の1割はそういった人達が来ていないといけないことになる。そういった視点から施設の役割や事業を、意識的に修正していく必要があるだろう。施設の立地が地域の中心でないなどハード面で限界があると思うが、例えば子育て講座は、その海外の事例では「ストーリータイム」といって、毎日10時から12時まで親子が参加できる講座を行っている。そうすると、近所の人達は午前中に施設に行けば必ず講座が行われているという意識を持つことができ、時間がある時に思い出して参加するようになる。そこから少しずつつながりができていって、孤立家庭率が解消されていくという事例がある。このように、参加する人の立場になって既存の事業を見直すということも必要であろう。</p>
議長	<p>意見交換を行ってきたが、この資料はこのような方向にさせていただくということで了解いただけるか。</p> <p>《一同了解》</p>
議長	<p>今日の審議を踏まえ、この資料については、議長・副議長・関委員でまとめ、教育委員会に提出するということがよろしいか。</p> <p>《一同了解》</p>
議長	<p>先ほどの、この資料の表題についてだが、何か意見はあるか。</p>
委員	<p>図のタイトルだが、「子育てを見守るチームワーク」の「見守る」は、4つのキーワードの1つでもある。「子育てを取り巻く」や「子育てを包み込む」といったものにし、それを資料のタイトルとしたらどうか。例えば「子育てを包み込むチームワーク作り（家庭教育）」とするのはいかがか。</p>
議長	<p>それではその意見も含めて、まとめを作成する。 冒頭にも話に出たが、このまとめはどのように活用していくのか。</p>
社会教育課長	<p>教育委員会にご提出いただいた後、どのように施策に反映していけるか、また各公民館にも伝え、検討していければと考えている。</p>
議長	<p>続いて、議事（3）その他について事務局よりお願いしたい。</p>

事務局	<p>入間地区社会教育協議会総会開催について（５月１０日（火）川越市ウエスト川越にて）</p> <p>所沢市社会教育委員２名、事務局１名が参加。小沢委員は、今年度入間地区社会教育委員の副会長を務めていただく。</p> <p>埼玉県社会教育委員連絡協議会総会開催について（５月３１日（火）嵐山町 国立女性会館ヌエックにて）</p> <p>所沢市社会教育委員１名、事務局１名が参加。総会後の研修会のテーマは「ものづくりでつながりをつくろう」。</p> <p>研修会の詳細については、参加した委員より報告していただく。</p>
委員	<p>クラフトマン世田谷の白井紘さんによる研修であった。今回はハンドクラフトという工作のようなものだったが、民間の力を使って人と人をつなげ、リーダーシップを養っていく活動の話であった。相手を１００％信じて、自ら手を挙げて関わっていただくということで、リーダーシップが養われるのと同時に、チームワークも育まれるということであった。非常に有意義な研修会であった。所沢でもいつかこの方をご紹介する機会が作れたらと思う。</p>
事務局	<p>西部地区人権教育実践報告会開催について（７月２９日（金）飯能市市民会館にて）</p> <p>詳細については通知にてお知らせしているが、参加をお願いしたい。また、来年度は所沢市において開催する予定である。</p> <p>《議事については以上で終了。》</p>
議長	<p>それでは、進行を事務局へお返しする。</p> <p>【４ 事務連絡】</p> <p>《特になし》</p>
教育長	<p>所沢図書館において、読み聞かせや幼稚園・保育園との連携等、子どもの読書推進活動を精力的に行ってきたが、今年度の始めに文部科学大臣の表彰をいただいたことを報告させていただく。</p>

事務局	<p>【5 閉会】 閉会の言葉を副議長にお願いしたい。</p>
副議長	<p>本日が今任期最後の会議ということだったが、皆様のご協力によりまとめが出来そうである。北海道の事件では、置き去りにされた子どもの気持ちを考えると、子どものこれからが心配である。私も就学前、大勢で山に山菜取りに行ったときに夢中になってしまい、短い時間であったが皆とはぐれてしまったことがあった。そのことは未だに夢に出てくるほどである。子どもの心への影響を考えると、周りの多くの大人達の支援が必要であると感じる。小さな出来事でも、子ども達はそれを背負って大人になっていく。その過程で、社会教育として様々な支援をしていくことは大事である。委員の皆様にはコーディネーターとして、今後も社会や地域で活躍されることを期待している。</p> <p>《以上で終了》</p>